

奈良文化女子短期大学 幼小接続ワーキンググループ合同研究会
第46回 議事録

- 1 日 時 平成25年4月20日(土) 11:00~12:55
2 場 所 奈良文化女子短期大学 本館 5階(第1演習室)
3 参加者 17名

うち 新規参加者 5名
中埜玲子 一津屋愛育園
柿木規子 白鳩保育園
小西 綾 白鳩保育園
北野よしみ 白鳩保育園
上島三佐子 鳥見幼稚園
本学事務局 5名

4 内 容

- (1) 本研究会のこれまでの取組経過及び本年度の活動計画について(善野代表)

○ 幼小接続を拡大的視点で

幼児教育と小学校以降の教育との接続を柱に、生涯学習の視点で小中、中高、高大の接続へと発展させていくことが重要である。

○ 幼小接続を3つの立場と3つの自立の視点で

幼児教育の充実を図るためには、「家庭」、「幼稚園」、「保育所」の3つの立場から、また「学習の自立」、「生活上の自立」、「精神的な自立」の3つの自立の視点でとらえていくことが重要である。

○ 昨年度は、本研究会において低学年スタートカリキュラムに焦点を当てるとともに、その手がかりとして「一日体験入学」のカリキュラム作成に取り組んできた。その際、幼小の子どもたちにとっての互惠性を大切にした。

○ 本年度は、学習の自立として「言葉の力を育てる」に焦点を当て、小学校以降の各教科教育につながる研究を深めていく構想、計画をしている。

- (2) ミニ講演…「対話」をキーワードとした幼小接続研究に向けて

(鳴門教育大学教職大学院教授 前田洋一先生)

○ 遊びから学びへ

意味付け…内的な認識構造に位置付ける。

価値付け…個のよさを外的な普遍性のある価値体系に位置付ける。

自分の規範意識…一人一人の存在感とよさを認め、仲間が互いに深く関わられるように方向付ける。

○ 学びを支えるもの

焦点化、共有化、視覚化が重要となってくる。

[焦点化の具体例] 幼児が何について話すかを、保育者が事前に伝えることによって幼児の頭の中で具体的にイメージできる。

○ 知識、技能に裏付けされた高度な問題解決能力の育成

幼稚園での経験カリキュラムで育んだ問題解決力の基礎は、小学校の教科教育において知識理解・思考力・判断力・問題解決力として焦点化され発展していく。

○ 学びの基礎力としての自己調整学習

自分の内から発する言葉の力で、あきらめず頑張り続ける、仲間と一緒にできる力を育むことが重要である。

○ 創造性を育むために

・日常の中に輝きを見つける / 模倣から創造へ / 環境づくりとタイミング…これらの価値付け、意味付けをしていくことによって「はいまわる問題解決学習」を回避することができる。

○ 言葉の力とは

- ・コミュニケーションとしての手段
- ・思考の手段
- ・行動をコントロールする手段
- ・自己表現する手段
- ・自我の形成

こうした手段としての言葉の性格を基盤に、「辛い、痛い、かわいそう」といった情動を表す言葉を幼児が獲得していくことによって、人の痛みに気づけることにつながる。

○ 小学校入学前には言葉を大切にしたい

自分の感情を十分に味わうことにより、自分なりのコントロールができるようになる。そのプロセスは次のようなモデルとして示せる。

(自分の) 快不快→(自分の) 善悪→(自分の) 正誤→(他者の) 快不快へと発展していく。

そのための手段としては、大人が感覚に言葉を付けて教えることが出発点となる。幼児が他人の気持ちをわかるようになるためには、保育者は幼児に自分の情動に言葉を付けて教えていく必要がある。そのための言葉の力は道具として位置付け、子どもの教育に当たっていくことが大切である。

(3) ワークショップと各グループからの報告(校種混合による3グループで協議)

○ 「とまどいマトリクス」を用いて、参加メンバーによる幼小の子どもたちの小学校生活でのとまどい実態を出し合い、協議を進めていった。

○ 各グループから出された子どもの実態報告

[第1グループ]

- ・小学校では、保護者への文書連絡、連絡帳等での連絡がうまく伝わらない。
この原因として考えられることは、幼稚園では迎えに来園したときに口頭での連絡が主であるのに対して、小学校は文章による連絡が増えるため保護者が見ていないことが多いのではないかと思われる。
- ・幼稚園と小学校では、時間の流れ、名前の呼び方、「起立・礼」の挨拶、和式トイレの使い方、牛乳の飲み方など、生活上の大きな違いに子どもがと

まどいを見せる。

- ・入学式でのとまどいとしては、パイプ椅子の高さで足下が不安定である。式での校歌等を初めて聞く体験に少しとまどいが見られる。

[第2グループ]

- ・小学校ではチャイムでの区切りのある生活となる。
- ・保護者が連れて登園していたスタイルから自分で歩いて登校するスタイルに変化した。
- ・「はい」から「はい」へと、返事の仕方の指導が小学校で行われる。
- ・教室での自分の机や椅子が決まっている。
- ・上靴と下靴の履き替えの場所等のルールが、細かく決まっている。
- ・衣服のたたみ方では、幼稚園では床であり小学校では机の上となる。

[第3グループ]

- ・「起立・礼」などの学習習慣が未定着による混乱が見られる。
- ・授業中等のトイレは、「いつ・どこで・どのように伝えればよいか」の言葉による伝え方がわからないなど、自分で判断できずに失敗してしまうことがある。
- ・水道の蛇口の使い方など、学校の設備によっては困っている子どもがいる。
- ・入学式での会場の椅子が子どもに合わない。子どもの足が床に着くように幼稚園から借りてくるなどの工夫をしている。

(4) まとめ

○ 善野代表から

段差に関するとまどい事例について

- ・もの・空間・時間による段差からくるとまどい事例が多く出されたが、子どもの姿からとらえたワークショップであり、次回の合同研究会につないでいきたい。

○ 「言葉の力」には、書き言葉と話し言葉があるが、本日は特に話し言葉にかかわるミニ講演や「とまどい」事例が多く出された。今後は、書き言葉に関する事例も共有して検討していきたい。

○ 前田教授から

著書の紹介について

- ・「力と夢を育てる新しい学校づくり」(教育出版)を、善野教授と前田教授の共著として出版したとの紹介があった。

5 次回の予定

平成25年5月18日(土) 11:00~12:30

※毎月定例は、第3土曜日11:00~12:30